

Le
dernier
Monet
Paysages
d'eau

モネ

睡蓮のとき
すい れん

ジュニア・パスポート

JUNIOR PASSPORT

展示室でのマナー

さわらない

×



さくひん
作品を
たいせつに

走らない

×



ぶつかる
ときけん

さわがない

×



お話は
小さなこえで

エンピツを使おう



インクで
よごさないように

本冊子は、小学校高学年～中学生のみなさんの鑑賞を想定して作成しました。
低学年のみなさんは保護者の方と一緒にご覧ください。

《睡蓮》(部分) 1916-1919年頃 マルモッタン・モネ美術館、パリ © musée Marmottan Monet



フランスのパリに生まれたクロード・モネ(1840-1926)は、43歳から亡くなるまで、パリから列車で1時間ほどの小さな村、ジヴェルニーで暮らしました。モネは自ら木々や草花を選び、家族や庭師とともに20年あまりの時間をかけて「花の庭」と「水の庭」を作りました。そしてモネは季節や天候、時間を変えてくり返しその庭を描き続けたのです。

展覧会では、ジヴェルニーで描かれた睡蓮の連作や大画面の作品も見ることができます。モネの庭を訪れるように、展示室へ行ってみましょう。



ジヴェルニーの近くのセーヌ河を描いた作品です。ジヴェルニーは霧の出やすい土地で、モネは毎朝3時半に起きて、早朝の光や霧など大気の変化を描きました。実際の景色が水面に鏡のように映りこんでいます。

さがしてみよう！

モネの庭には、^{すいれん}睡蓮や^{アイリス}アイリス、アガパンサス、キスゲ、^{ふじ}藤といった、たくさんの植物がありました。
モネが庭を^{さんさく}散策したように、^{てんじしつ}展示室をゆっくり歩いてみましょう。



《睡蓮、夕暮れの効果》(部分) 1897年 マルモッタン・モネ美術館、パリ © musée Marmottan Monet / Studio Christian Baraja SLB



《黄色いアイリス》(部分) 1914-1917年頃 国立西洋美術館



《アガパンサス》(部分) 1914-1917年頃 マルモッタン・モネ美術館、パリ © musée Marmottan Monet



《ふじ》(部分) 1919-1920年頃 マルモッタン・モネ美術館、パリ © musée Marmottan Monet



《キスゲ》(部分) 1914-1917年頃 マルモッタン・モネ美術館、パリ © musée Marmottan Monet



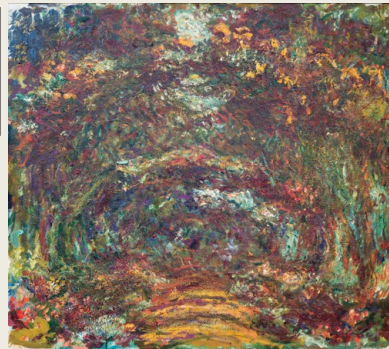
気になる作品を見つけたら、遠くから全体をながめたり、
近くによって細かいところまで観察したりしてみましょう。

日本の橋



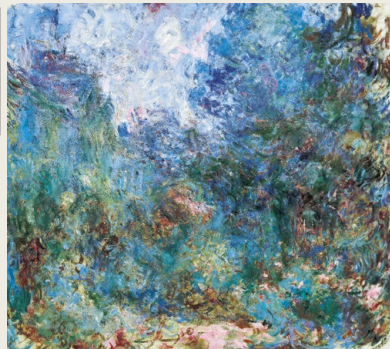
《日本の橋》1918年 マルモッタン・モネ美術館、パリ © musée Marmottan Monet

ばらの小道



《ばらの小道、ジヴェルニー》1920-1922年頃 マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet / Studio Christian Baraja SLB

モネの家



《ばらの庭から見た家》1922-1924年頃 マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet

そう ぞう
想像してみよう！



季節

時間

天候

光はどこから？



ばんねん
晩年のモネは、熱心^{えが}にたくさんの作品を描きながらも、家族との別れ
や目の病気^{だいち し せ かいたいせん}、第一次世界大戦^{で き こと}といった出来事にも向き合っていました。

この頃^{ころ}、モネは睡蓮^{すいれん}の池のまわりにある枝垂れ柳^{し だ やなぎ}を主役^{なみだ}に描くよう
になります。枝垂れ柳は涙^{しやうちやう}を流すような姿に見えることから、人々
の悲しみを象徴するものでもあったのです。

モネはどんな気持ちで描いたのだろう？



筆あとに注目してみよう！



細い線、太い線、強い線、かすれた線……。
気になる筆あとを真似^{まね}してみましょう。



モネの庭 「花の庭」と「水の庭」



3番目のアトリエ

大きな睡蓮すいれんの絵は、
この一番大きなアトリエえがで描かれました。

花の庭

1番目の
アトリエ

モネの家

2番目の
アトリエ

ばらの小道

日本の橋

しだやなぎ
枝垂れ柳

川から水を引いて作られた
睡蓮すいれんの池

モネは日本から取りよせた
睡蓮の花が咲くのを、
亡くなる直前まで気にかけていました。

水の庭

1883年

- (43歳)
● ジヴェルニーに住む

1893年

- 「水の庭」に
取りかかる



1897年

- ＊ 〈睡蓮〉を
描きはじめる

1909年

- ＊ 〈睡蓮〉連作の
個展を開催

1912年

- (72歳)
● 白内障と診断

1923年

- 手術で視力がやや回復



1890年

- 家を購入し、
庭の計画をはじめる

1895年

- 日本の橋 (太鼓橋)
完成!

1908年頃

- 目の不調に
気づく

1911年

- 妻が亡くなる
＊ 半年ほど描くことが
できなくなる

1914年

- 長男が亡くなる
＊ 制作再開
＊ 大装飾画に取り組み、
生涯描き続ける

1926年

- 86歳で亡くなる

Le
dernier
Monet
Paysages
d'eau
モネ
睡蓮のとき

会期＝2024年10月5日〔土〕－2025年2月11日〔火・祝〕 9:30－17:30（金・土曜日は21:00まで）

※入館は閉館の30分前まで

休館日＝月曜日、10月15日〔火〕、11月5日〔火〕、12月28日〔土〕－2025年1月1日〔水・祝〕、1月14日〔火〕
（ただし、10月14日〔月・祝〕、11月4日〔月・休〕、2025年1月13日〔月・祝〕、2月10日〔月〕、2月11日〔火・祝〕は開館）

主催＝国立西洋美術館、マルモッタン・モネ美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社、BS日テレ

〔ジュニア・パスポート〕執筆：藤田百合（女子美術大学准教授） 編集：藤田百合、白濱恵里子（国立西洋美術館）
デザイン・イラスト：守屋史世（ea） 制作・発行：国立西洋美術館 ©2024 国立西洋美術館

なまえ

日付

年

月

日



国立西洋美術館

The National Museum of Western Art

Musée
Marmottan
Monet



ACADÉMIE
DES BEAUX-ARTS
INSTITUT DE FRANCE



本展は、政府による
美術品補償制度の
適用を受けています。